

## 臨海3Rステーションイベント・講座紹介

### “ひろい”海の活動

都会でありながら多彩な自然に囲まれた場所・福岡市において、主に小学生を対象に水中スノーケル体験・ビーチクリーンアップ活動を行います。活動当日は、プロのスキューバダイビングインストラクターの指導・安全管理のもとで、子どもたちが実際に水中の様子や生物を観察した後に海岸に上がり、全員でビーチクリーンアップ活動を行います。海岸のごみが水中生物に与える影響などを様々な視点で考えることができる、新しい形の環境啓発活動です。

このイベントは、一般社団法人ふくおかFUNと特定非営利活動法人エコネットふくおかが主催、福岡市環境局、日本財団 海と日本プロジェクト、地球環境基金(内閣府)の後援を受けて実施します。

#### 《目的》

福岡に住む子どもたちに水中スノーケル体験やビーチクリーンアップ活動を通じて、自身の住む地域の海や生物を実際に見聞したり触れ合ったりする機会を提供し、日常生活では感じる事が難しい感動やインスピレーションを与えることを目的としています。さらに、スノーケル体験を行った後に海岸のクリーンアップ活動を行うことで、子どもたち自身に「このごみは水中生物にどんな影響を与えるだろう?」「このごみを食べた生物を僕たちが食べるとどうなるだろう?」といったような、水中や海岸にごみが存在することへの問題に気付いてもらい、自発的に行動してもらいたいと考えています。

#### 《日程》

日時:平成28年9月11日(日)10:00~13:30  
場所:福岡市東区箱崎 宮崎宮お潮井浜(現地集合)  
対象:小学3年生~6年生  
定員:40名(先着)  
参加費:無料  
持ってくるもの:水着、サンダル、タオル、飲み物  
その他:1グループにつき、成人1名以上の付き添いをお願いしています  
小雨の場合は開催します  
申込方法:電話申込



去年の様子

#### 《当日の流れ》

10:00 集合、着替え、オリエンテーション、スタッフによる参加者の体調確認  
10:50 器材フィッティング  
11:00 スノーケル体験・水中生物観察  
12:30 ビーチクリーンアップ  
13:00 まとめ  
13:30 解散



ビーチクリーンアップ

#### 親子で流木から物かけ作り

平成28年8月23日(火)に何年も海を旅した流木を利用して、すてきな物かけ作りをします。

講師は、福津市在住の流木アーティストlittle yardさん。丁寧に下処理された流木を、ごみではなく使える物にしましょう。お問い合わせはエコネットふくおか事務局まで。



流木で作った物かけ



## リサイクルしよう 紙パックリサイクル

紙パックは飲み物を入れる紙容器のため、バージンパルプを使用しています。紙パックは最高級のパルプで、パルプ繊維が長いのが特徴です。白く柔らかい紙へと再生することが可能で、トイレトペーパーやティッシュペーパーなど暮らしに身近な紙に形を変えています。1リットルの紙パック6枚で、トイレトペーパー1個が作れます。

日本で1年間に作られる紙パックは約23万トンですが、未回収の紙パックは約13万トンです。臨海3Rステーションの館内には紙パックの回収ボックスがあり、福岡市内の区役所やスーパーなどでも回収しています。紙パックを資源としてリサイクルしましょう。

### 紙パックQ&A

- Q 紙パックと他の紙と一緒に回収に出せますか?  
A 紙パックは新聞紙、雑誌、段ボールなどの他の古紙類と一緒に回収に出すと、燃えるごみとして処理されてしまいます。分別をして回収に出しましょう。
- Q 回収されない紙パックはありますか?  
A 福岡市では内側がアルミコーティングされた紙パックや、プラスチック製の注ぎ口が付いたままの紙パックなどは回収されません。
- Q まな板などに使った紙パックは回収できますか?  
A まな板などに使った後でも、汚れやにおいがないように洗って乾かせばリサイクルできます。捨てずに回収に出しましょう。



参考:『紙パックリサイクルほんとはなし』(全国牛乳容器環境協議会)

## 生ごみコンポスト畑日記

発泡スチロール容器を使った生ごみコンポストで、堆肥作りを始めて2ヶ月余り。毎日野菜くずなどを入れて、せっせとかき混ぜました。野菜ばかりだと温度が上がらないのですが、そういう時は揚げ物後の鍋の油を米ぬかでぬぐい取り、コンポストへ投入!翌日にはコンポストの温度が50度くらいまで上がりました。

コンポストをかき混ぜるのは1日1回と聞いていましたが、朝晩、愛情込めて混ぜました。生ごみを分解する微生物は、酸素が必要な‘好気性’なので、よく混ぜるといい堆肥になります。

1ヶ月ほど経つとコンポストがいっぱいになってきたので、生ごみ投入をストップして、熟成させるためにひたすら混ぜることさらに1ヶ月。もちろん、熟成期間はもう1つ容器を用意して、新たにコンポストを続行します。そうやって出来上がった堆肥を畑に入れました。今は、トマト、さつまいも、黒豆、にらなどが元気よく成長しています。

自宅倉庫を撤去した後に作った畑で、砂と粘土質の土が多く、まだまだ肥えた畑には程遠いですが、季節の野菜を少しずつ増やしていきたいと思っています。(奈)



コンポストと畑の様子

## コラム「愛縁機縁」 もんぺの人気

福岡市内から出るごみをできるかぎり減らそうと、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を市民に広く分かってもらうための活動に日々汗を流している。

生きていく上での衣食住すべてにわたって、ごみになるようなものを不用意に買ったりしていないか、使い捨て商品ではなくて、繰り返し使えるものを選んで使っているか、不要になったものを別の用途で使えるように工夫して、ごみにせずにものをよみがえらせているか。自らも自問自答の日々である。

この春から、衣の講座「かんたんもんぺ作り」を市政だよりで募集したところ、市民からの応募がたくさんあり、急ぎよ、講座数を2回に増やした。ひと月過ぎてもまだ要望の電話が入り、2ヶ月で都合4回にわたってもんぺ作り講座を実施した。

なぜ今、もんぺなんだろう?もんぺ作りを希望して手仕事の良さを発揮したい人が急に増えたとも思えない。ネット通販で若い女性が1度に数本もまとめ買いたくなるほどの魅力はどこにあるのか。

もんぺの人気の理由を周囲に聞いてみた。

- 動きやすいので思わず活動的になって、家事も買い物もウォーキングも、もんぺ一つで1日がこと足りる。
- はいていておしゃれな気がするの、と、とんどん外出したくなり、周りの人に「かっこいい!」と声をかけられる。
- 洗濯が楽なので、毎日洗濯して、乾かして、畳むだけ。アイロンも不要で、省エネに役立っている。
- 講座に参加した際に型紙をもらったので、2枚目のもんぺ作りは家で楽しんで作り、押入れに眠っていた古い木綿の布地類のリサイクルになった。
- 作る前に思っていたより、簡単にできたので嬉しかった。

もんぺは、かつて国家に半ば強制されて着用した戦時生活の象徴のような代名詞と呼ばれた時代があった。ゆったりした胴回りと足首の部分で絞った裾が特徴であり、着物が普段着だった時代は、着物のまますっぽりともんぺの中に入れることができるので、活動に適していると重宝されていたとも聞く。

もんぺの人気の理由は一口でいえば、簡単、便利、経済的、プラスおしゃれということであろうか。脱ぎ着が簡単で、用途はオールマイティーの便利さに加え、家に眠る不要な布を使って自分で縫えば経済的この上なしであり、もんぺのポケットの位置を変えたりして自分だけのおしゃれ心を満足させることもできる。いこうとなしの逸品の地位を獲得したといえるだろう。時代の変遷とともにもんぺの価値観も有為転変したが、いつまでも不動の人気を保ってもらいたいと願わずにいられない。(鮎)



かんたんもんぺ作りの作品